

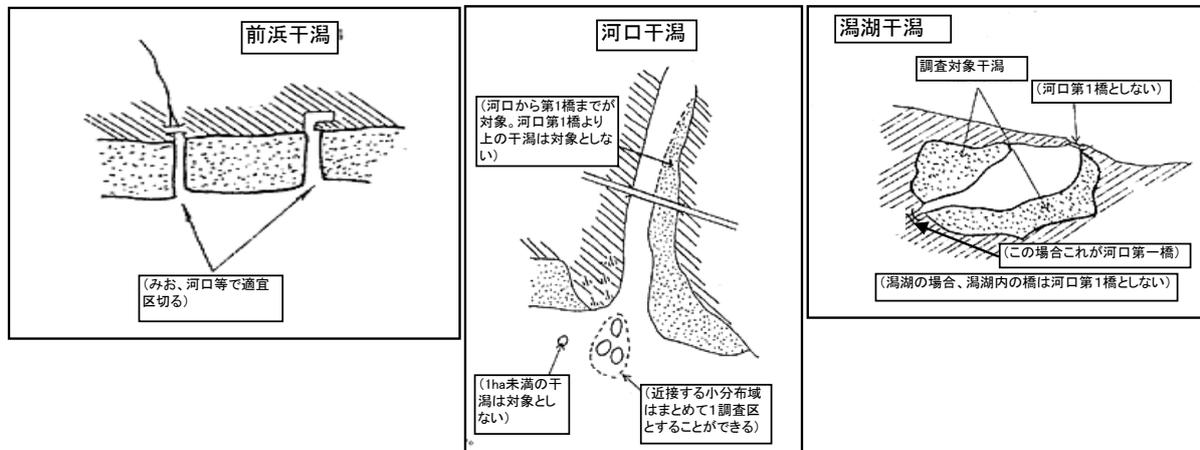
表 10. 2 東京湾における干潟のタイプと面積

都県	地名	干潟タイプ	底質	面積 (ha)
千葉県	盤洲干潟 (約 1400ha)	畔戸地先	前浜	493.8
千葉県		木更津港北	前浜	358.4
千葉県		中島高須	前浜	345.0
千葉県		牛込高須	前浜	210.5
千葉県	富津干潟 (145.6ha)	富津公園地先	前浜	118.2
千葉県		富津港北	前浜	27.4
千葉県	三番瀬 (27.4ha)	千葉港地先干潟	前浜	16.6
千葉県		船橋海浜公園地先	前浜	10.8
神奈川県	金沢	前浜	砂泥	20.0
千葉県	幕張の浜	その他	砂泥	16.6
東京都	高州	人工干潟	砂泥	16.0
東京都	多摩川河口 (河川内を除く)	河口	砂泥	11.5
千葉県	いなげの浜	その他	砂泥	9.6
千葉県	豊砂地先海浜	その他	砂泥	9.2
千葉県	検見川の浜	その他	砂泥	6.8
千葉県	木更津港内	前浜	砂泥	6.5

注1) 対象干潟 ・高潮線と低潮線に挟まれた干出域の最大幅が100m以上であること。  
 ・大潮時の連続した干出域の面積が1ha以上であること。  
 ・移動しやすい底質 (砂、礫、砂泥、泥) であること。

注2) 干潟タイプ 下図のとおり前浜・河口干潟・潟湖干潟及びその他 (人工干潟等) に分類される。

注3) 調査区設定方法 現存干潟の調査区設定・面積等把握の際には、原則同タイプの干潟が連続的に分布する範囲 (分布域) を1調査区とする。ただし、分布域が長大な場合は、河口、みお、航路、岬角等の地形で適宜区分することができる。各タイプの調査区設定は区分基準 (下図のカッコ内) に準ずる。



注4) 底質： 礫：粒径2mm以上  
 砂：0.1～2mm  
 泥：0.1mm以下  
 砂泥：砂と泥の混合

注5) 河川内の干潟は除いた。

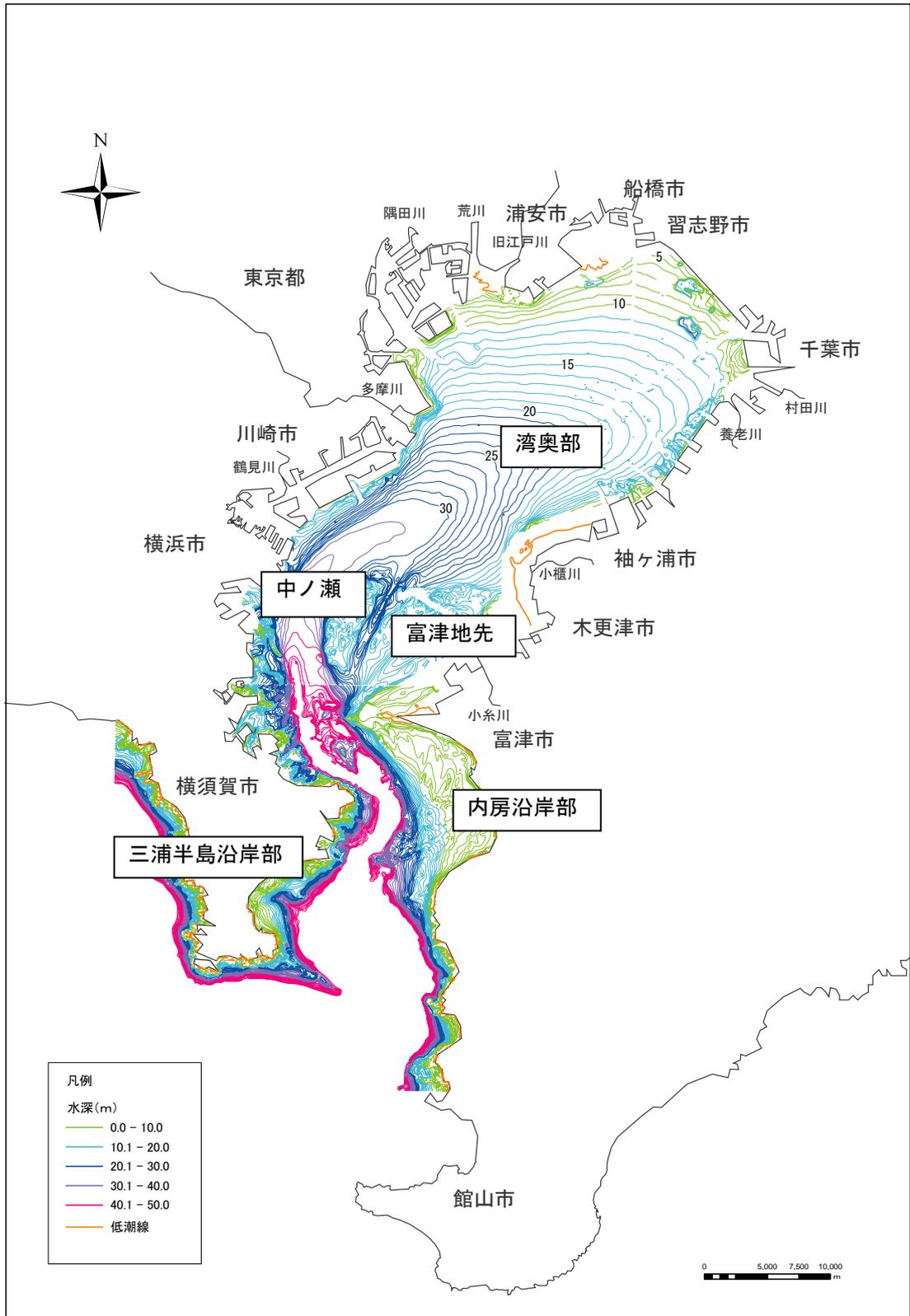
出典：環境省 第5回自然環境保全基礎調査

表 10. 3 東京湾における藻場のタイプと面積

都県	地名	藻場タイプ	疎密度	面積 (ha)
神奈川県	間口	アラメ場	密生	261.0
神奈川県	野比	アラメ場	疎生	152.0
千葉県	富津干潟	アマモ場	疎生	116.9
千葉県	盤洲干潟	アマモ場	疎生	104.1
神奈川県	久比里	アラメ場	疎生	94.0
神奈川県	千太崎	アラメ場	疎生	77.0
神奈川県	鴨居、島ヶ崎	ガラモ場	密生	58.0
神奈川県	毘沙門根	アラメ場	密生	53.0
神奈川県	走水	アラメ場	疎生	49.0
神奈川県	ナガ根	アラメ場	疎生	49.0
神奈川県	雨崎	アラメ場	密生	43.0
神奈川県	三ツ磯	アラメ場	疎生	36.0
神奈川県	ボッケ崎	アラメ場	疎生	28.0
神奈川県	松崎	アラメ場	疎生	27.0
神奈川県	アシカ島	アラメ場	密生	27.0
神奈川県	猿島	アラメ場	疎生	24.0
神奈川県	香山根	アラメ場	疎生	24.0
神奈川県	川尻	アマモ場	疎生	24.0
神奈川県	小浜	アラメ場	密生	23.0
神奈川県	金田	アラメ場	密生	20.0
神奈川県	伊勢町	アマモ場	疎生	19.0
千葉県	大房岬	ガラモ場・アラメ場・ワカメ場	疎生	18.6
神奈川県	細根	アラメ場	密生	18.0
千葉県	沖ノ島	ガラモ場・ワカメ場	濃生	16.1
千葉県	名鐘寺	ガラモ場・アラメ場	密生	14.8
千葉県	竹岡	ガラモ場・アラメ場	密生	13.3
千葉県	浮島	ガラモ場・アラメ場・ワカメ場	疎生	11.6
千葉県	坂田	アラメ場	密生	11.4
千葉県	大浜	ガラモ場・アラメ場	疎生	10.3
千葉県	鷹ノ島	ガラモ場・アラメ場	疎生	9.4
千葉県	洲ノ崎灯台下	ガラモ場・アラメ場	疎生	9.4
千葉県	波左間	アラメ場	密生	7.5
神奈川県	観音崎	アラメ場	疎生	7.0
神奈川県	タタラ浜、腰越	アマモ場・ガラモ場	疎生	7.0
千葉県	菘生新町、芝崎	ガラモ場・アラメ場	疎生	6.5
千葉県	西浜	アラメ場・ワカメ場	疎生	5.5
千葉県	南無谷	ガラモ場・アラメ場・ワカメ場	疎生	4.0
神奈川県	笠島	アラメ場	疎生	1.0
神奈川県	黒島	アラメ場	疎生	1.0

- 注 1) 対象藻場 ・面積が 1 ha 以上であること。  
 ・水深が 10m 以浅に分布すること。
- 注 2) 藻場タイプ アマモ場：アマモ、コアマモ等が代表種（優占種）となっている藻場。  
 ガラモ場：ホンダワラ類・ウミトラノオ等が代表種（優占種）となっている藻場。  
 アラメ場：アラメ・カジメ・クロメ等が代表種（優占種）となっている藻場。  
 ワカメ場：ワカメ・ヒロメ等が代表種（優占種）となっている藻場。
- 注 3) 疎密度 濃生：海底面がほとんど植生で覆われている。  
 密生：海底面より植生の方が多い。  
 疎生：植生より海底面の方が多い。

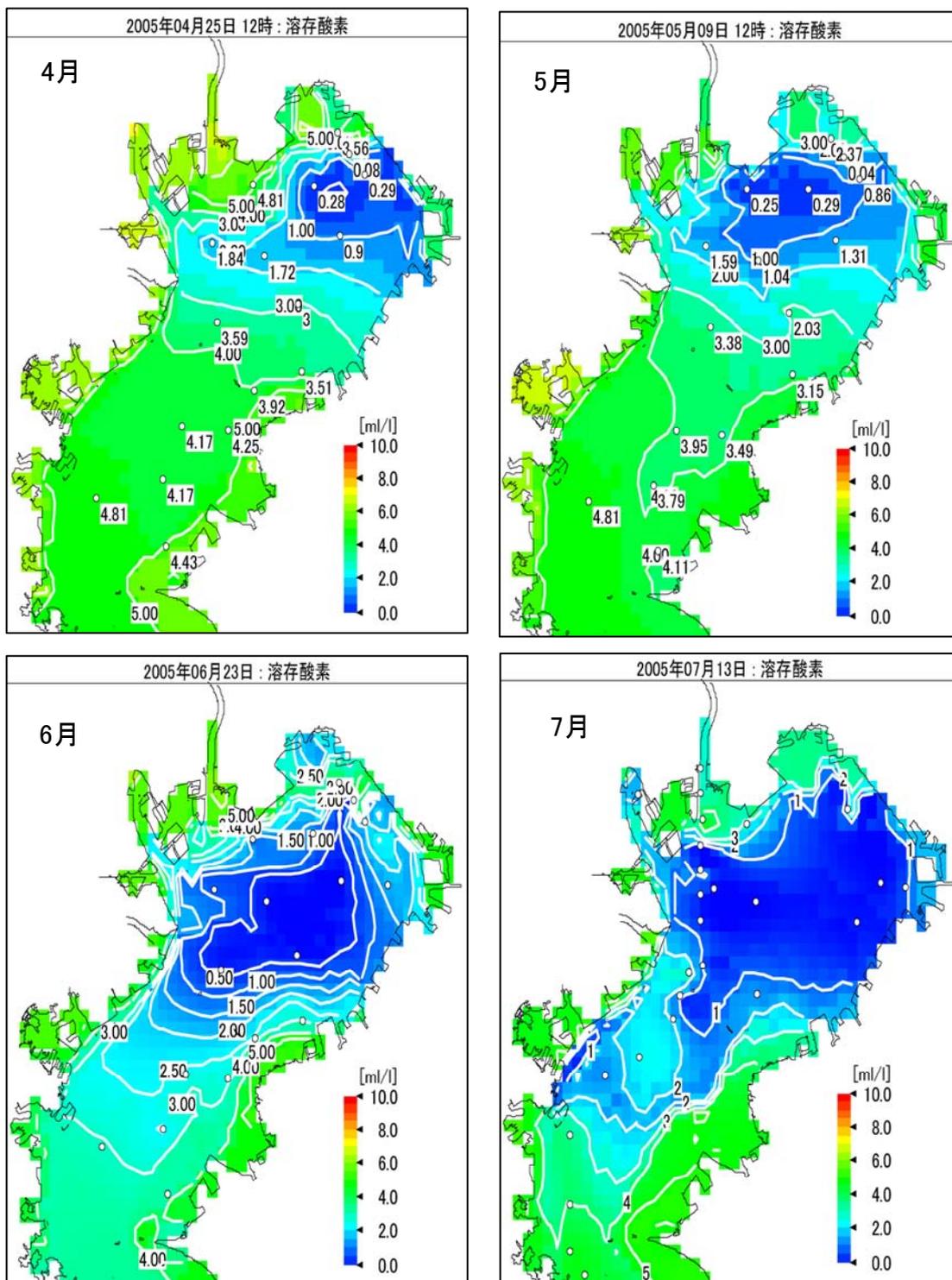
出典：環境省 第 5 回自然環境保全基礎調査



### 海底地形図

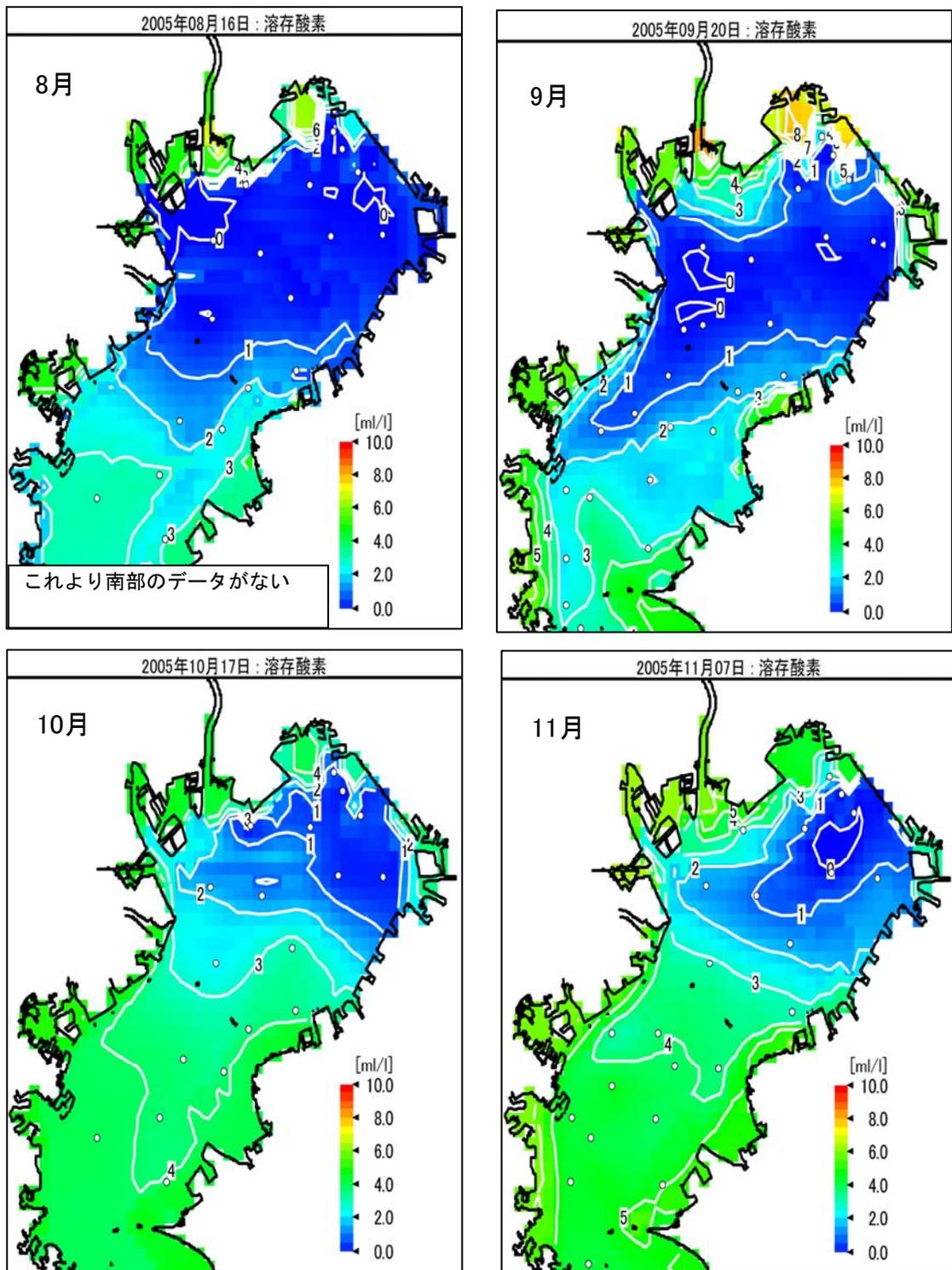
出典：海上保安庁 航海用電子海図「東京湾」（平成16年3月）より

図10.6 東京湾の主要な浅場



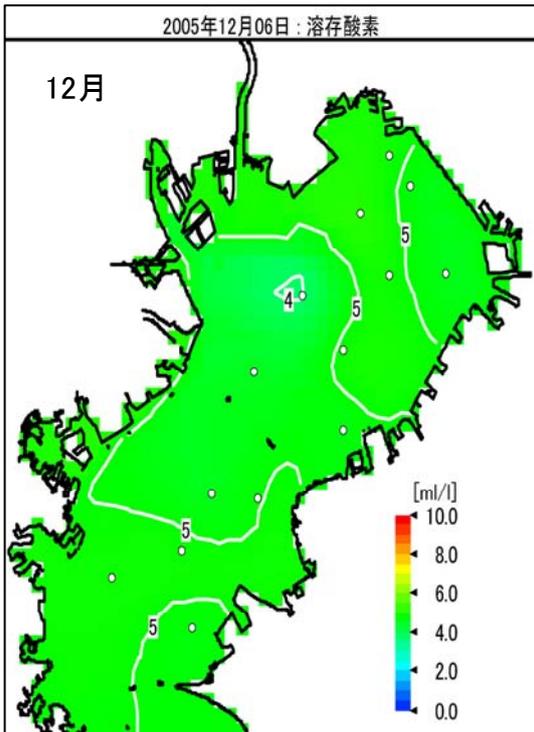
出典：「貧酸素水塊速報」(千葉県水産総合研究センター)

図10.7(1) 東京湾の下層DOの分布図



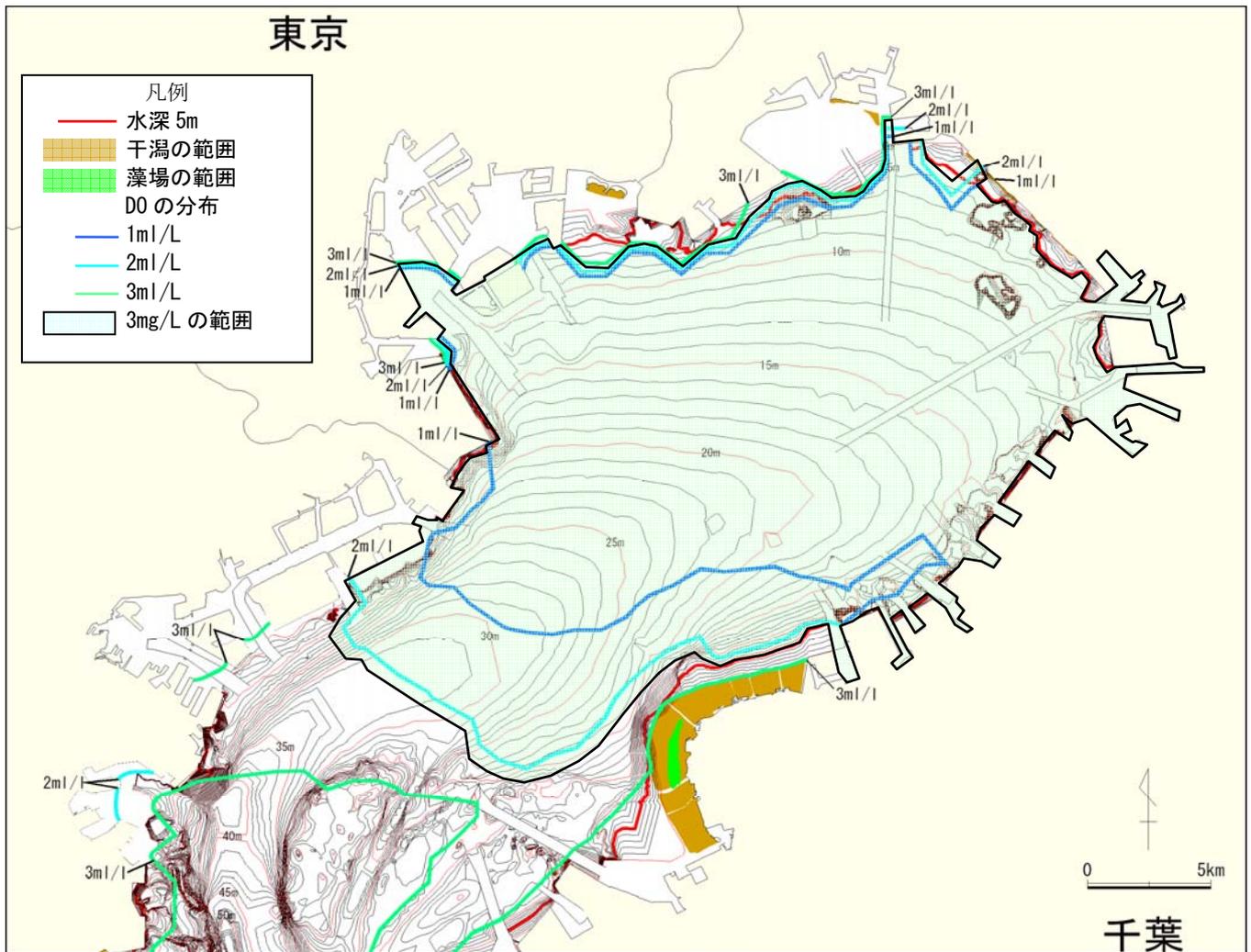
出典：「貧酸素水塊速報」（千葉県水産総合研究センター）

図10.7(2) 東京湾の下層DOの分布図



出典：「貧酸素水塊速報」（千葉県水産総合研究センター）

図10.7(3) 東京湾の下層DOの分布図



注：1ml/L=1.4mg/L、2ml/L=2.9mg/L、3ml/L=4.3mg/L

出典：「貧酸素水塊速報」（千葉県水産総合研究センター）のDO分布（2005年8月）を水深図に重ね合わせた。

図10.8 東京湾における貧酸素水の分布

表10.4 東京湾における主要な魚介類の選定結果

種	周年定住種*	漁獲量(近年10ヶ年の合計漁獲量が50位以内)	保護水面	産卵場や成育場が藻場、干潟等の特定の「場」に依存する**	選定結果	選定理由	
アイメ	○		東京湾には保護水面は設定されていない				
アカマス		○					
イシガレイ	○	○			○	○	成育場が干潟に依存する。
ウナギ							
ウマヅラハギ	○						
カタクチイシ		○					
コノシロ	○	○					
スズキ	○	○			○	○	成育場がアマモ場に依存する。
ヒラメ	○	○			○	○	成育場が干潟に依存する。
ホラ		○					
マアジ		○					
マアナゴ		○					
マイシ		○					
マコガレイ	○	○			○	○	成育場が干潟、アマモ場に依存する。
マサバ		○					
マダイ	○	○			○	○	成育場がアマモ場に依存する。
マハゼ	○						
メバル	○				○	○	成育場が岩礁性藻場に依存する。
アカガイ	○						
アサリ	○	○			○	○	成育場が干潟に依存する。
トリガイ	○						
バカガイ	○	○			○	○	成育場が干潟に依存する。
ヤマトシジミ	○						
コウイカ	○	○					
マダコ	○	○					
シバエビ	○						
シヤコ	○	○					
ニホンイサガミ	○						

\*魚介類の生態特性により推定した。

\*\*魚介類の生態特性より、産卵場あるいは成育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに○を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。

表 10. 5 (1) 東京湾における主要な魚介類 8 種の生態特性

 :分布域  
 :分布域(水深情報不足)

東京湾の 主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)													
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アマモ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他		
スズキ	分離浮性卵 産卵期: 11~3月 稚魚期: 4月~秋季	表層	岩礁域(外海水の影響を受ける水深50~80m)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(沿岸域)(仔魚後期はアマモ場・河口域周辺に移動する)	底生生活				稚魚期(体長12~60mmまで)								河川域:稚魚期(体長12~60mmまで)		
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m~																				
イシガレイ	分離浮性卵 産卵期: 11~2月 稚魚期: 2月~秋季	表層	内湾(水深30m以浅の砂泥域)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活から底生生活へ移行(仔魚期変態期以降)	底生生活(10m以浅の浅所)														
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m~																				
マコガレイ	付着沈性卵 産卵期: 11~2月 稚魚期: 2月~秋季	表層	沿岸域(水深10~50mの砂泥・砂礫・岩礁)	海底塊状粘着	浮遊生活(変態期まで)(水深10m前後)	底生生活(30m以浅)														
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m~																				
ヒラメ	分離浮性卵 産卵期: 2~6月 稚魚期: 春季~秋季	表層	沿岸域(砂泥・砂礫・岩礁)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(変態期まで)(表層~中層20mに多く分布)	底生生活(10m以浅)														
		表層下-10m																		
		11-20m																		
		21-30m																		
		31-40m																		
		41-50m																		
51m~																				

出典: 沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカタコ類編) ((財)海洋生物研究所,1991)  
 新版魚類学(下)改訂版 (落合明・田中克,1998)  
 水産生物の生活史と生態 ((社)日本水産資源保護協会,1985)

表 10. 5 (2) 東京湾における主要な魚介類 8 種の生態特性

 :分布域  
 :分布域(水深情報不足)

東京湾の 主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)											
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
マダイ	分離浮性卵 産卵期:5~7月 稚魚期:夏季~秋季	表層	岩礁域(水深30~100m)	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活 (仔魚後期:水深 10m前後)	底生生活(水深 20m以浅)			稚魚(水深20m以 浅)	稚魚(水深20m以 浅)								
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		
メバル	卵胎生魚 産仔期:12~2月 稚魚期:3月~秋季	表層	潮流が速くホンダワラ類が繁 茂した岩礁域(水深20~ 30m)	浮遊生活(沿岸域) (水深10m前後)	底生生活(全長30 ~60mmで着底)													稚魚(着底後は藻場を中心する海域に生 息し、藻場の消長に応じて移動する)
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		
アサリ	分離浮性卵 産卵期:3~7月 9~11月	表層	内海・内湾の潮間帯~ 10mまでの砂泥底	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活 (幼生期)	底生生活(浮遊期 間2~3週間後着 底)			稚貝	稚貝								
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		
バカガイ	分離浮性卵 産卵期:4~7月 10月	表層	内湾の潮間帯~10mま での砂泥底	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活 (幼生期)	底生生活(浮遊期 間約2週間後着底)			稚貝	稚貝								
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		

出典:沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカタコ類編) ((財)海洋生物研究所,1991)  
 新版魚類学(下)改訂版(落合明・田中克,1998)  
 水産生物の生活史と生態((社)日本水産資源保護協会,1985)

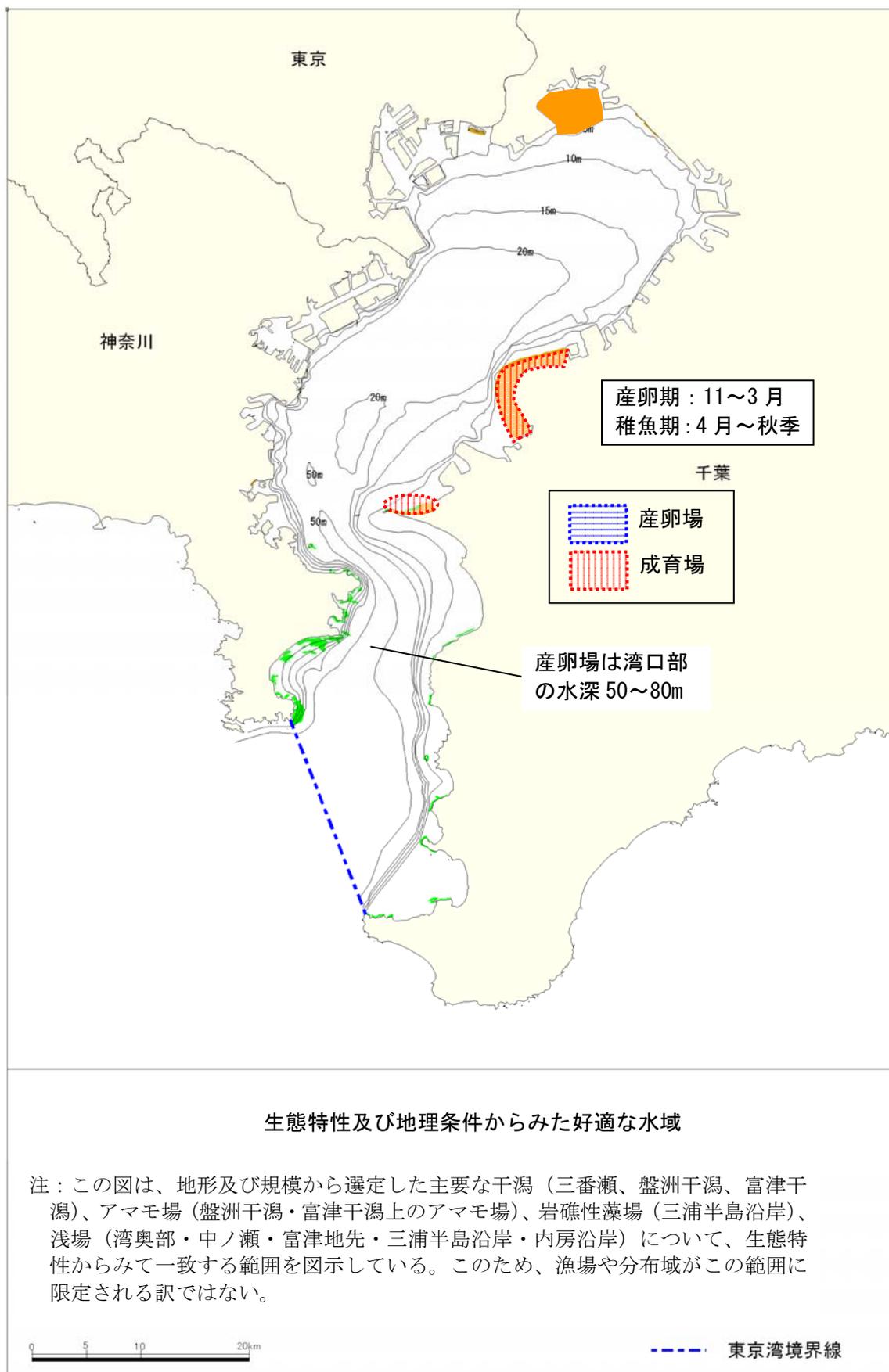


図10.9(1) 生態特性・地理条件・水質条件からみた好適な水域（スズキ・1）